

いわて 国際環境シンポジウム

難分解性有機フッ素化合物汚染の現状と将来展望

難分解性有機フッ素化合物はテフロンなどの原料や化粧品、衣類のコーティングなど様々な分野で使用されてきました。ところが、分解されにくい性質のために環境中に残留するとともに、生物濃縮が認められ、ヒトへの健康影響も懸念されています。

本シンポジウムは、この問題に対する理解を深め我々の美しい環境と尊い命を守りつつ、社会活動を持続的に活性化させるための方策を考える機会とします。



日時 平成 24 年 7 月 23 日 (月)
13:30~17:00

会場 いわて県民情報交流センター
7F「アイーナホール」

定員 300 名
(入場無料:どなたでも参加できます)

お問い合わせ先

岩手県環境保健研究センター
TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667



プログラム

- 13:30-13:40 開会のあいさつ (岩手県知事 達増拓也)
- 13:40-14:00 難分解性有機フッ素化合物の安全対策 (国立医薬品食品衛生研究所 大野泰雄 所長)
- 14:00-14:20 難分解性有機フッ素化合物:過去、現在、未来 (米国環境保護庁 Dr. Andrew B. Lindstrom)
- 14:20-14:40 日本における難分解性有機フッ素化合物汚染の現状 (岩手県環境保健研究センター 齋藤憲光 研究専門員)
- 14:40-15:00 難分解性有機フッ素化合物体内負荷の新しい生物指標 (中国大連理工大学 金一和 教授)
- 15:00-15:20 <休憩>
- 15:20-15:40 難分解性有機フッ素化合物毒性の最近の理解 (米国環境保護庁 Dr. Christopher S. Lau)
- 15:40-16:00 難分解性有機汚染物質対策における発生源の重要性 (韓国釜慶大学 玉坤 教授)
- 16:00-16:20 難分解性有機フッ素化合物類の排水処理 (京都大学大学院 田中周平 准教授)
- 16:20-16:40 難分解性有機フッ素化合物の環境リスクにおける課題 (国立環境研究所 白石寛明 環境リスク研究センター長)
- 16:40-16:50 閉会のあいさつ (岩手県環境保健研究センター 滝川義明 所長)

主催 岩手県

後援 岩手県教育委員会、岩手大学、岩手医科大学、岩手県立大学、地方衛生研究所全国協議会、全国環境研協議会、岩手日報社、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、読売新聞盛岡支局、河北新報社盛岡総局、産経新聞盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局、岩手日日新聞社、デーリー東北新聞社、共同通信社盛岡支局、時事通信社盛岡支局、盛岡タイムス社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手 (順不同)